

105 Tl-201全身シンチグラフィによる一側下肢運動負荷時の下肢筋肉の血流分配の評価(第2報):プレチスモグラフィとの比較

瀬戸 光, 藤山昌成, 清水正司, 吳 翼偉, 二谷立介, 亀井哲也, 柿下正雄(富山医薬大 放)

一側下肢運動負荷時の運動筋への血流の再分配の程度はTl-201の放射能比により、評価が可能であることを報告してきた。今回、Tl-201全身シンチグラフィから得られた下肢の運動筋と非運動筋の放射能比とプレチスモグラフィで測定した血流比を比較して、本法の妥当性を検討した。男性11名に仰臥位で一定重量負荷時(1~10kg)に一側足関節の伸屈運動をさせ、Tl-201を2mCi 静注するとともにプレチスモグラフィにより、両下腿の血流量を測定した。その直後、後面から全身シンチグラフィを施行し、両下腿の放射能比を求めた。放射能比と血流比との間には良好な正の相関が認められた($r=0.98$)。

106 高速全身スキャンモードを利用した下肢RI-アンジオグラフィ

伊藤 和夫(北大 核)、斎藤 猛美、東 康一(函館中央 放)、清水 鉄也(同 外科)、山根 繁(同 整形外)

骨盤を含め下肢全体の血管像を得ることを目的に、高速全身スキャンモードを利用した下肢RI-アンジオグラフィについて検討した。コントロール群として骨スキャン時に本検査を32例に施行し、8例は下肢血管病変あるいは術後の症例に施行した。方法は右肘静脈に翼状針を固定し、Tc-99m-MDP20mCi静注後、胸部に設定しておいた角型大視野ガンマカメラを下肢方向に80cm/1分の最大スキャンスピードで走行させた。データは1028x512マトリックスで収集した。骨盤部は全例、太腿動脈は31/32例、膝窩以下では5/32例で走行血管の同定が可能であった。一回循環による広範囲な血管像の同定法として有用である。

107 下肢リンパ浮腫に対するリンパ球動注療法についての¹¹¹In-oxine標識リンパ球による検討

林 義典、松本隆裕、原田雅史、松崎健司、佐藤一雄、柏原賢一、吉田秀策、西谷 弘、吉栖正典、吉田 修、加藤逸夫(徳大 放、心外)

四肢のリンパ浮腫に対する治療法としてリンパ球動注療法があるが、その作用機序解明のため¹¹¹In-oxine標識リンパ球を用いてリンパ球動注療法時のリンパ球動態の検討を行なった。

対象は下肢リンパ浮腫3例で、1症例に対して少なくとも4回のリンパ球注入療法が施行されている。

症例が少なく断定はできないが、患側では時間放射能曲線が2峰性を示したり、大腿骨部の集積が高くみられたりした。無効例では患側/健側の放射能比の経時的变化が有効例に比べ小さく思われた。

108 Cold rt-PA前投与によるTc-99m-rt-PAの血栓集積性の変化

塚本江利子、伊藤 和夫、古館 正從(北大核)、高橋 明弘、阿部 弘(北大脳外)

我々は、先の総会にて、血栓モデルラットにおけるTc-99m-rt-PAの血栓集積性について報告した。今回は、cold rt-PAの前投与によるTc-99m-rt-PAの血栓集積性の変化を調べた。ネコの頸動脈においたfibrin塞栓へのTc-99m-rt-PAの集積は、cold rt-PAの前投与により、血液との比にして1.06から1.64へと有意に上昇した。この結果は、前回、Tc-99m-rt-PAの血栓集積を低下させる要因として推定したTc-99m-rt-PAとinhibitorとの複合体形成が、あらかじめ投与されたcold rt-PAとinhibitorとの複合体形成により減少することを予想させた。

109 末梢血管に対するPGI₂の効果の判定

島田孝夫、伊藤秀穂、磯貝行秀(慈大3内)、守谷悦男、関根 広、川上憲司(同放)

末梢血行不全症例に対して、PGI₂は主たる治療法であるがその投与法は確定していない。今回¹³³Xeによる皮膚血流(BF)測定法および既に本学会で報告した¹³³Xeを用いた末梢循環血圧(PPP)測定法を用いて、PGI₂の誘導体であるILOPROSTの血行動態に及ぼす効果について検討した。ASO症例6名に対してILOPROSTを0.5、1.0、1.5 ng/Kg/minにて静注し、20分後における心拍出量(NCOM IIIにて)、血圧、皮膚温、BF、PPPを測定した。血圧、心拍出量には有意な変化はなく、皮膚温の上昇は0.5で最大に達し、その後変化はなかったがPPPは0.5で最大となりその後低下し、BFは1.5では有意に低下した。以上よりPGI₂の大量療法は皮下の動静脈吻合血流量を増大させsteal現象を起こす事がわかった。